



発行所 一般社団法人全国信用金庫協会 東京都中央区八重洲1-3-7 東京 03(3517)5711 購読料は月110円、ただし会員の購読料は会費より徴収

信用金庫と ともに歩む 共栄火災 KYOEI FIRE & MARINE INSURANCE Co., Ltd.

来年度の事業計画を協議

第2回人事教育委員会を開催

全信協は12月15日、ウェブを適切に組み合わせた採用活動や通年採用人事教育委員会を開催し、2021年度全信協人事教育事業計画案について協議を行った。

(1) 人事の確保・定着への取り組み支援では、人事労務をめぐる外部環境と、信用金庫における人事上の課題などを踏まえ、次の六つの事項を重点課題として取り組むこととしている。

(2) 管理者のマネジメント能力の向上に資する取り組みの支援では、特に部下育成をはじめとし、前回は承認された事業計画の骨子案に基づき、計画化した事業計画案の説明が行われ、協議の結果、原案どおり了承された。

同事業計画案では、人事労務をめぐる外部環境と、信用金庫における人事上の課題などを踏まえ、次の六つの事項を重点課題として取り組むこととしている。

活躍推進に資するための施策を検討する。

(4) 雇用制度改正等への対応支援では、信用金庫の人事・労務分野への実務に大きく影響する雇用制度改正等の動向に、信用金庫が適時適切に対応できるよう、諸規程の参考例の作成や情報提供等を積極的に行う。

(5) 信用金庫の理念を理解し、自ら考え行動できる職員の育成については、全国信用金庫研修所では、信用金庫をめぐる環境の変化や経営上の課題を踏まえ、マネジメン

ト能力および専門性の向上に重点を置いた講座編成とする。特に、①女性職員の活躍推進②若手職員の能力開発③管理者のマネジメント能力向上④課

寄稿

信用金庫に期待すること

大学院大学至善館教授・幸せ経済社会研究所所長 枝廣 淳子

お金の流れを変えること。若い頃、10年ほど同時通訳の仕事をしてきた。医学の専門ではなかったが、何度か代打で、医学の通訳をしたことがある。冠動脈の疾患がた



大学院大学至善館教授・幸せ経済社会研究所所長 枝廣 淳子

くさんあることをその時知った。いろいろな理由で、血液が行くべきところへ行かなくなってしまうと病気になるのだ。ひどい場合には血液が届かなくなると部位は壊れてしまふ。

治療は、カテーテルでバルーンやステントを入れて血管を広げたり、削ったり、またはバイパス手術で血管を新たに作り替える。そして、必ず壊死させ、社会や地球の持続可能性を損なう事業

創立100周年の目指すべき姿

昨今の今頃を振り返ると、到来した2020年を祝い、50年振りに戻ってくる東京オリンピック・パラリンピックに胸を踊らせていた。新型コロナウイルス感染症拡大については1月中旬には他国や船の上で起こっていること、過去の感染症の流行と同様に日本では抑え込めるとま

さに「対岸の火事」といった認識しかなかった人々も多かったと思う。

その後、国内でも感染者数が増加して、1月後半には当金庫においても緊急対策本部を設置した。感染予防のため2月後半には職員にマスク支給を開始したが、11年前の新型インフルエンザ流行時に購入して倉庫に眠っていたサージカルマスクが役に立った。これもまさに「備えあれば憂いなし」であった。

誰もが3月を過ぎて4月頃になれば終息するだろうと思っていたが、さらにその後はオリンピックの1年延期、7都府県に緊急事態宣言が発出された。夏

を迎えても街を歩く人たちのほとんどがマスク着用している風景を誰が想像したのだろうか。1年たった今もマスクは生活必需品である。マスク着用は新常态となった。

この1年間を冷静に考えると、不謹慎かもしれないが経営者として悪いことばかりではなかった。信用金庫の経営理念は、金融業務を通じて地元の中小企業や地域のお客さまの夢の実現のお手伝いをさせていたこと

とであることは全役員が認識しているが、入庫間もない職員にも体現・実感させられているかという点では十分ではなかった。

しかし、コロナ禍の影響を受けた地域のお客さまの課題解決のため、入庫間もない職員を含めた職員が一丸となって自らの感染リスクがある中で奔走してくれたこと、活動を通じてお客さまに寄り添い、適切なサポートをしたこと、お客さまから感謝され、結果として「達成感」

を感じたこと、コロナ禍の影響を受けた地域のお客さまの課題解決のため、入庫間もない職員を含めた職員が一丸となって自らの感染リスクがある中で奔走してくれたこと、活動を通じてお客さまに寄り添い、適切なサポートをしたこと、お客さまから感謝され、結果として「達成感」を感じたこと、コロナ禍の影響を受けた地域のお客さまの課題解決のため、入庫間もない職員を含めた職員が一丸となって自らの感染リスクがある中で奔走

地域の危機は日本の危機

地域社会の価値の創造に貢献する。信用金庫も持続的に成長する願いを込めている。

コロナ禍以降のことを言及した書籍の中の一冊でこんなことが書かれていた。「ポストコロナ時代における日本の強みは『共存共栄』の思想……裏付けられた安定的な社会が存在すること、この安定的な社会は『サステイナビリティ(持続可能性)』の高さという面での、わが国の優位性につながっている」とあり、まさに信用金庫の理念、策定した長期経営ビジョンと多くの部分で共通していると感じた。

コロナ禍はいまだ収束しておらず、新常态でスタートする長期経営ビジョンは、言い換えるところ「存在意義・営業ビジョン・組織ビジョン・人材ビジョン」をそれぞれ整理・明文化・定義したもので、団結を強固にするための共通目標でもある。全役員が共有し、ビジョン達成に向けて「考動」することで「地元になくはない信用金庫」を目指し、100周年を迎えたい。

私自身も環境活動を展開していたが、この数年間は島根県海士町、北海道下川町、熊本県南小国町、徳島県上勝町など、何力所かの地域に関わって、持続可能で幸せな地域づくりのお手伝いをさせていた。未来は地域にしかない」と強く思っているからだ。

地方経済の疲弊や人口流出・減少は、地方に住む人々だけの問題ではな

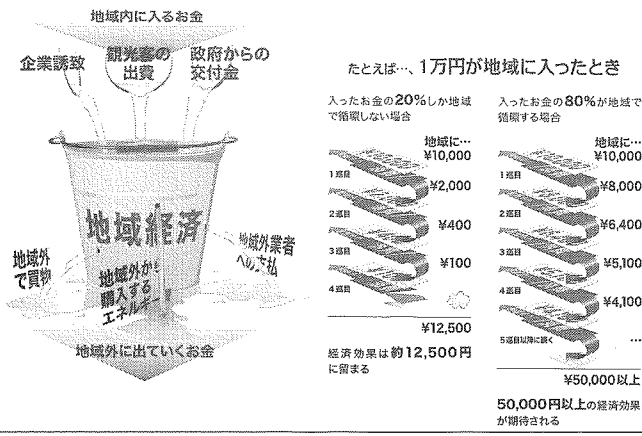
論壇

論壇 緊急事態宣言が発出された。夏

論壇 緊急事態宣言が発出された。夏

論壇 緊急事態宣言が発出された。夏

あなたの地域の経済は、「漏れバケツ」になってませんか？



日本には現在人口3万人未満の自治体が954あるが(平成27年国勢調査)、その人口を合計しても、日本の総人口の約8%にすぎない。しかし、これらの自治体の面積を合わせると、日本全体の約48%になる。つまり、日本の面積の半分近くをわずか8%の住民が支えているのだ。これらの地方で地域経済が回らなくなると、ますます人口流出・減少に拍車がかかり、無人地帯が広がっていくことになるだろう。そうなることと、日本の国土を保全することをおぼつかなくなってしまう。地方の危機は日本の危機なのである。持続可能な地域にするためには、地域内で経済をしっかりと循環させる必要がある。

漏れバケツモデル

その重要性を分かってやってくれれば、その「漏れバケツ」モデルである。これは英国のロンドンに本部のあるシンクタンク New Economics Foundation (NEF) が打ち出したものである。地域を「バケツ」として考えてほしい。地域にお金を引く張ってあるということは、そのバケツの中に水を注ぎ込むことに例えることができる。しかし、せっかくお金が入っても、地域からその大部分が出て行ってしまっている、つまりバケツに穴があいている状態だ。バケツに水をいくら入れても流れ出てしまえば、水はたまらない。では、どうするべきか？ もちろん「バケツの穴をふさぐ」ことだ。バケツの穴をふさげば、残る水の量は増える。そして、地域経済の完全な自給自足や自立を目指すことになる。

「100%の自給自足」など不可能であり、望ましくもない。しかし、地方への交付金や補助金が減っていく時代には、地元経済が外部に依存している割合を下げることは、地域のレジリエンス(しなやかさ)につながる。外部に依存しない強さが生まれ、自分たちの足で立つことができるようになる。そうしてはじめて、ある程度自立した地域同士が相互に交換・交流するということ、安全・安心な豊かさを創り出すことができるだろう。

買物以外のお金の流れ

先に、消費者に対して「買物以外の投資」としての話をしたが、ある意味、見えやすく分かりやすい買物以外にも、重要なお金の流れがある。生活者からいけば、「貯蓄」だ。自分が金融機関に預けたお金がどのように使われているかによって、地球や社会の持続可能性を支援できる一方、破壊しているかもしれないのだ。こちらは、見えにくく分かりにくいお金の流れと言えよう。しかし、「どこに預けようかな?」「この株を買おうかな?」「この投資行動も、一人ひとりが選択できる。企業や自治体の調達も同様である。近代経済学は、人間を「安いモノを買う」「存在として位置付けている。しかし「安くはないけれど、環境に優しいモノを買う」人が増えている。このような消費行動は、現在主流の経済学では説明がつかない。同様に「利回り」だけではない尺度で、貯蓄先を選ぶ人が増えている。ESG投資の主流化がそのことを示している。

じょうな考えで、「地元のお金を地元で投資をしよう!」という取り組みだ。地域の住民が地元の小規模ビジネスに投資することで、自分たちの生活に必要な店舗や企業を支援するという、市民の手による新しい資本主義の形でもある。

域外や海外で事業をしている企業の株式や社債を買ったり、域外に投資をする銀行や郵便局に預金したりするのは違って、地元で投資したお金は地元経済にとどまり、投資の資金を地域から流出させない、地域経済の「漏れ穴」をふさぐ取り組みでもあるのだ。地元企業への融資や支援を手厚く行っている信用金庫に預金することも、ローカル・インベスメントである。「この事業・企業を応援したい」と、投資先を選ぶことはできないが、自分のお金を地元の小規模事業や企業への投資に役立てることができる。

全国信用金庫協会のホームページを見ると「信用金庫は、地域の方々が互いに地域の繁栄を図る相互扶助を目的とした協同組織の金融機関で、主な取引先は中小企業や個人です。利益第一主義ではなく、会員すなわち地域社会の利益が優先されます。さらに、営業地域は一定の地域に限定されており、お預かりした資金はその地域の発展に生かされている」と説明している。信用金庫は、まさに「漏れバケツ」をふさぐ取り組みを資金的に支援できる立ち位置にいるのだ。

「元元経済をしっかりと回すためのローカル・インベスメント」

世界では、「ローカル・インベスメント」が大きな潮流となりつつある。地域の住民が自分たちのお金を地元の経済に投資すれば、利子やリターンを得ながら、自分の地域の経済を元気づけることができる。「地元」の農作物を地元で食べよう」という地産地消と同

「買物以外の投資」としての話をしたが、ある意味、見えやすく分かりやすい買物以外にも、重要なお金の流れがある。生活者からいけば、「貯蓄」だ。自分が金融機関に預けたお金がどのように使われているかによって、地球や社会の持続可能性を支援できる一方、破壊しているかもしれないのだ。こちらは、見えにくく分かりにくいお金の流れと言えよう。しかし、「どこに預けようかな?」「この株を買おうかな?」「この投資行動も、一人ひとりが選択できる。企業や自治体の調達も同様である。近代経済学は、人間を「安いモノを買う」「存在として位置付けている。しかし「安くはないけれど、環境に優しいモノを買う」人が増えている。このような消費行動は、現在主流の経済学では説明がつかない。同様に「利回り」だけではない尺度で、貯蓄先を選ぶ人が増えている。ESG投資の主流化がそのことを示している。

「買物以外の投資」としての話をしたが、ある意味、見えやすく分かりやすい買物以外にも、重要なお金の流れがある。生活者からいけば、「貯蓄」だ。自分が金融機関に預けたお金がどのように使われているかによって、地球や社会の持続可能性を支援できる一方、破壊しているかもしれないのだ。こちらは、見えにくく分かりにくいお金の流れと言えよう。しかし、「どこに預けようかな?」「この株を買おうかな?」「この投資行動も、一人ひとりが選択できる。企業や自治体の調達も同様である。近代経済学は、人間を「安いモノを買う」「存在として位置付けている。しかし「安くはないけれど、環境に優しいモノを買う」人が増えている。このような消費行動は、現在主流の経済学では説明がつかない。同様に「利回り」だけではない尺度で、貯蓄先を選ぶ人が増えている。ESG投資の主流化がそのことを示している。

「買物以外の投資」としての話をしたが、ある意味、見えやすく分かりやすい買物以外にも、重要なお金の流れがある。生活者からいけば、「貯蓄」だ。自分が金融機関に預けたお金がどのように使われているかによって、地球や社会の持続可能性を支援できる一方、破壊しているかもしれないのだ。こちらは、見えにくく分かりにくいお金の流れと言えよう。しかし、「どこに預けようかな?」「この株を買おうかな?」「この投資行動も、一人ひとりが選択できる。企業や自治体の調達も同様である。近代経済学は、人間を「安いモノを買う」「存在として位置付けている。しかし「安くはないけれど、環境に優しいモノを買う」人が増えている。このような消費行動は、現在主流の経済学では説明がつかない。同様に「利回り」だけではない尺度で、貯蓄先を選ぶ人が増えている。ESG投資の主流化がそのことを示している。

「不都合な真実」

「地域経済や環境問題に関する活動を通じて」「変化を創りしなやかに強く、幸せな未来の共創をめざす。地方創生事業にアドバンス」

「これまでも」の枠組みを超えていく勇氣と行動力を期待している。

「不都合な真実」

「地域経済や環境問題に関する活動を通じて」「変化を創りしなやかに強く、幸せな未来の共創をめざす。地方創生事業にアドバンス」

「これまでも」の枠組みを超えていく勇氣と行動力を期待している。

「不都合な真実」

「地域経済や環境問題に関する活動を通じて」「変化を創りしなやかに強く、幸せな未来の共創をめざす。地方創生事業にアドバンス」

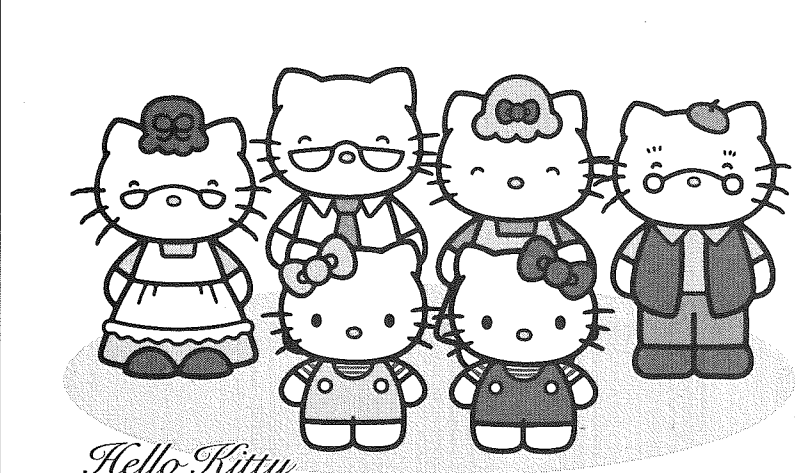
「これまでも」の枠組みを超えていく勇氣と行動力を期待している。

「不都合な真実」

「地域経済や環境問題に関する活動を通じて」「変化を創りしなやかに強く、幸せな未来の共創をめざす。地方創生事業にアドバンス」

「これまでも」の枠組みを超えていく勇氣と行動力を期待している。

信用金庫とともに歩むフコクしんらい生命は、しんきん窓販を積極的にご支援いたします!



©1976, 2020 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. L612321

認知症予防からのそなえ
『軽度介護保障特約』
軽度認知障害(MCI)と
業界初 *公的介護保険の要支援1にも対応

「軽度介護保障特約」付加可能商品
ハローキティの
定期保険
定期保険

ハローキティの
医療保険
解約返戻金抑制型医療保険

*公的介護保険制度にもつく要支援1または要支援2に該当していると認定されたときに給付金をお支払いする保障は、業界初です。(2020年6月現在、当社調べ)



フコクしんらい生命保険株式会社 フコクしんらい生命はフコク生命グループの一員です。研修会のご用命は、フコク生命の最寄の支社またはフコクしんらい生命の営業担当者までご連絡ください。 https://www.fukokushinrai.co.jp